

# 令和元年度ユニセフ・キャラバン・キャンペーン

令和元年5月20・21日に日本ユニセフ協会のキャラバン・キャンペーン隊の方々が来県しました。

## まず初めにユニセフとは

ユニセフは、第二次世界大戦が終わった翌年の1946年に誕生しました。乳幼児期から青年期までの子供たちの命や権利を守るために、保健、栄養、水と衛生、教育、暴力や搾取からの保護、HIV／エイズ、緊急支援、アドボカシーなどの支援活動を実施しています。日本も1949年（昭和24年）～1964年（昭和39年）までの15年間、粉ミルクや毛布、医療の原料（原綿）、医薬品などの支援を受けていました。そして、2011年（平成23年）の東日本大震災において、日本の子供たちが約半世紀ぶりに支援を受けました。

## 世界の子どもの現状とユニセフの活動



## ユニセフ・キャラバン・キャンペーンとは

日本の子供たちに、世界の子供たちが置かれている状況やユニセフの活動への理解を深めてもらうために、1979年の国際児童年にスタート。毎年、全国各地の学校を訪問し、ユニセフの出前授業（ユニセフ教室）が開催されています。春と秋に各ブロックをキャンペーン隊の方々が訪問し、4年で全国を一巡します。

## ユニセフ・キャラバン・キャンペーンの内容

5月20日（月）

◇教職員向け研修会



【研修会の前半は世界の子供たちの状況やユニセフについての説明】

1年間に540万人の子供が5歳になる前に命を失っています。原因は病院で出産ができないことなどもありますが、栄養が足りないため日本では予防できるような病気が原因でたくさんの子供が亡くなっています。

南スーダンの病院に、栄養が足りなくて体重が6kgしかない2歳の女の子が来ました。二の腕の太さを図るテープを使って危険度をチェックし、栄養治療食を与えます。この女の子の場合10.5cmしかなかったため、ピーナッツを使った高カロリーの栄養治療食を与えました。その結果、7日後には回復し、笑顔が戻りました。ユニセフでは栄養治療食による治療だけでなく、保護者への栄養指導も行っています。



【研修会の後半は「持続可能な開発目標(SDGs)」を題材としたグループワーク】

研修の前半では世界の子供たちについて考えてきましたが、後半は自分たちが関わる子供たちが今後どのような問題に直面し、どんな影響を受けていくかについて、各グループで話し合いました。そこで自分たちが出した課題と、SDGsの17個の目標との関わりについて、さらに話し合いました。持続可能な開発目標(SDGs)を、国連が決めた遠くのものではなく、身近なものとして考えました。

◇メッセージ交換



【教育長とのメッセージ交換】



【知事とのメッセージ交換】

5月21日（火）

◇ユニセフ教室

午前は和歌山市立砂山小学校、午後は和歌山市立明和中学校をそれぞれ訪問し、ユニセフ教室を開催しました。



【砂山小学校】



### 【水がめを運ぶ体験】

ネパールで実際に使われている水がめを使い、水くみの大変さを体験しました。

水がめの肩口まで水を入れると約 15kg の重さになります。

ネパールの子供たちはこれを担いで山道を登っていきます。

1 回運ぶのに往復 3 時間かかります。それを 1 日 2 往復します。そのため学校には行けなくなります。



### 【児童からの質問】

児童からの質問に 1 つ 1 つ答えていただきました。

100 円の募金で届けられるものについて質問がありました。

栄養が不足している子供にビタミン A のカプセルを 50 錠買うことができます。ビタミン A は免疫力を高める効果があり、1 錠で半年効果があります。



【明和中学校】



【蚊帳（かや）を体験】

ユニセフでは熱帯地域でマラリアを防ぐための蚊帳を広めています。日本の企業が開発した技術で蚊を落とす成分が入っているので、蚊がさわっただけで落ちていきます。蚊が入ってこないだけでなく、網があらくて風も通るのでよく眠ることができます。